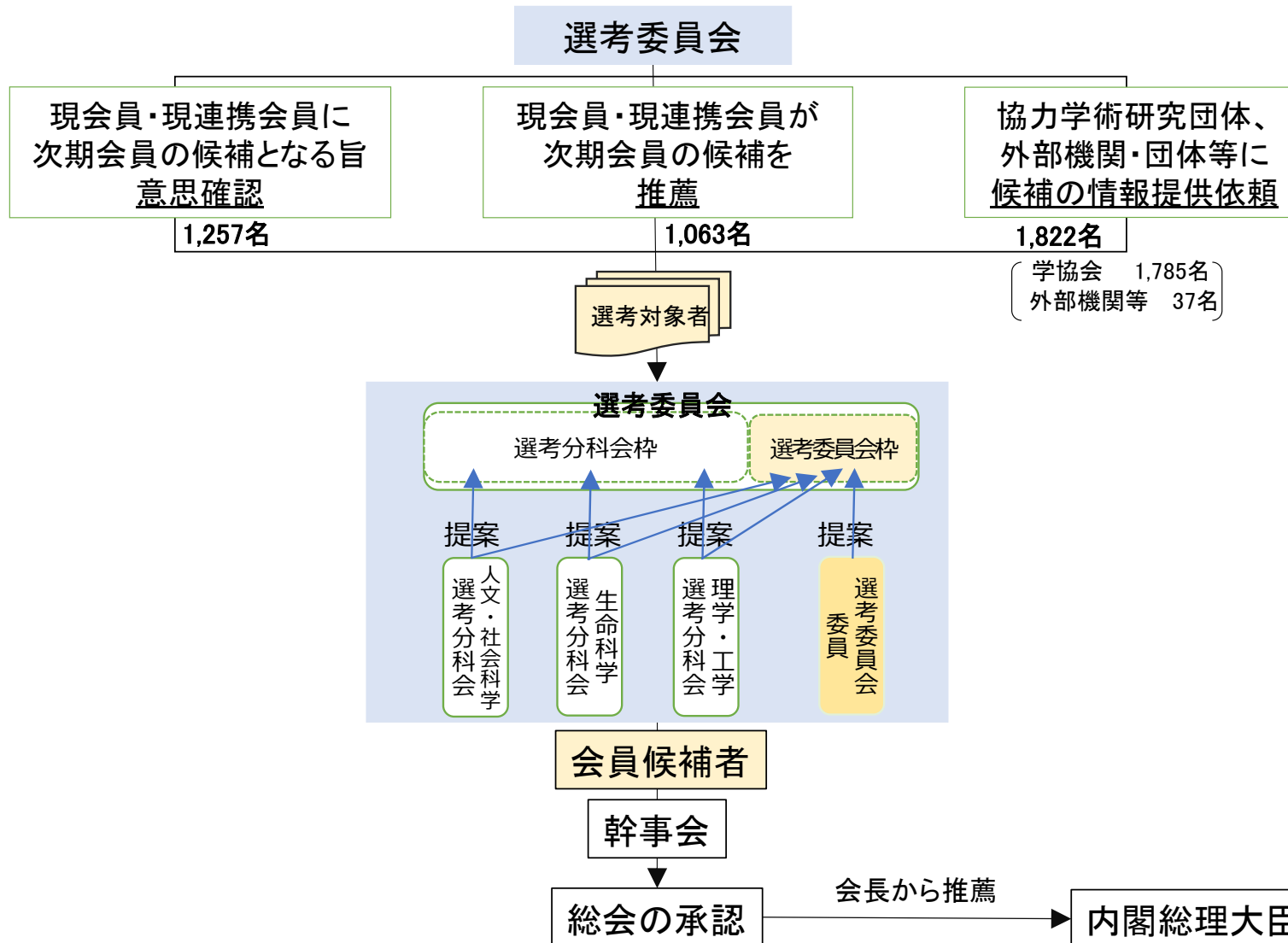


第26-27期における会員候補者選考の進め方



コ・オペレーション方式：

- ・優れた研究又は業績がある会員及び連携会員が次期会員の候補となりうる者を推薦。関連する学術研究団体や外部団体等からも情報提供を受ける
- ・学術に関しては**専門性を持つ者にその価値の判断をゆだねる**ことが適当であり、**科学者が自律した集団として公共的役割を果たす**という観点から採用（海外アカデミーでも採用）

任命後に各会員について

- ・研究又は業績の内容
- ・選考方針に基づく選考理由
- ・会員としての抱負を公表

会員選考に関する現行の制度及び方針について

- 選考分科会枠（基本は3つの部：第一部人文・社会科学、第二部生命科学、第三部理学・工学）

各分野の学問的専門性を踏まえ審議

会員候補者となるべき者を選考して選考委員会に提出

- 選考委員会枠

選考分科会枠の選考の後、以下に配慮して会員候補者となるべき者を選考

- ・ 学際的分野や新たな学術分野、第26期に重点的に取り組む事項、分野横断的・中長期的に取り組む課題に関する専門性
 - ・ 実務の現場での優れた研究又は業績
 - ・ 会員のジェンダーバランス等
 - ・ 分野横断的な国際学術団体で重要な役割
 - ・ ノーベル賞その他の学術的栄誉を受けるなど卓越した研究若しくは業績等
- 選考委員会枠を前期より拡大（前期 9名 → 今期 20名）

未来の学術振興構想(基本方針)

■ 提言「未来の学術振興構想(2023年版)」を策定

- 今後20～30年頃まで先を見据えた
- 学術振興の複数の「グランドビジョン」と
- その実現の観点から必要となる「学術の中長期研究戦略」から構成

■ 科学者コミュニティからの「学術の中長期研究戦略」の提案を公募

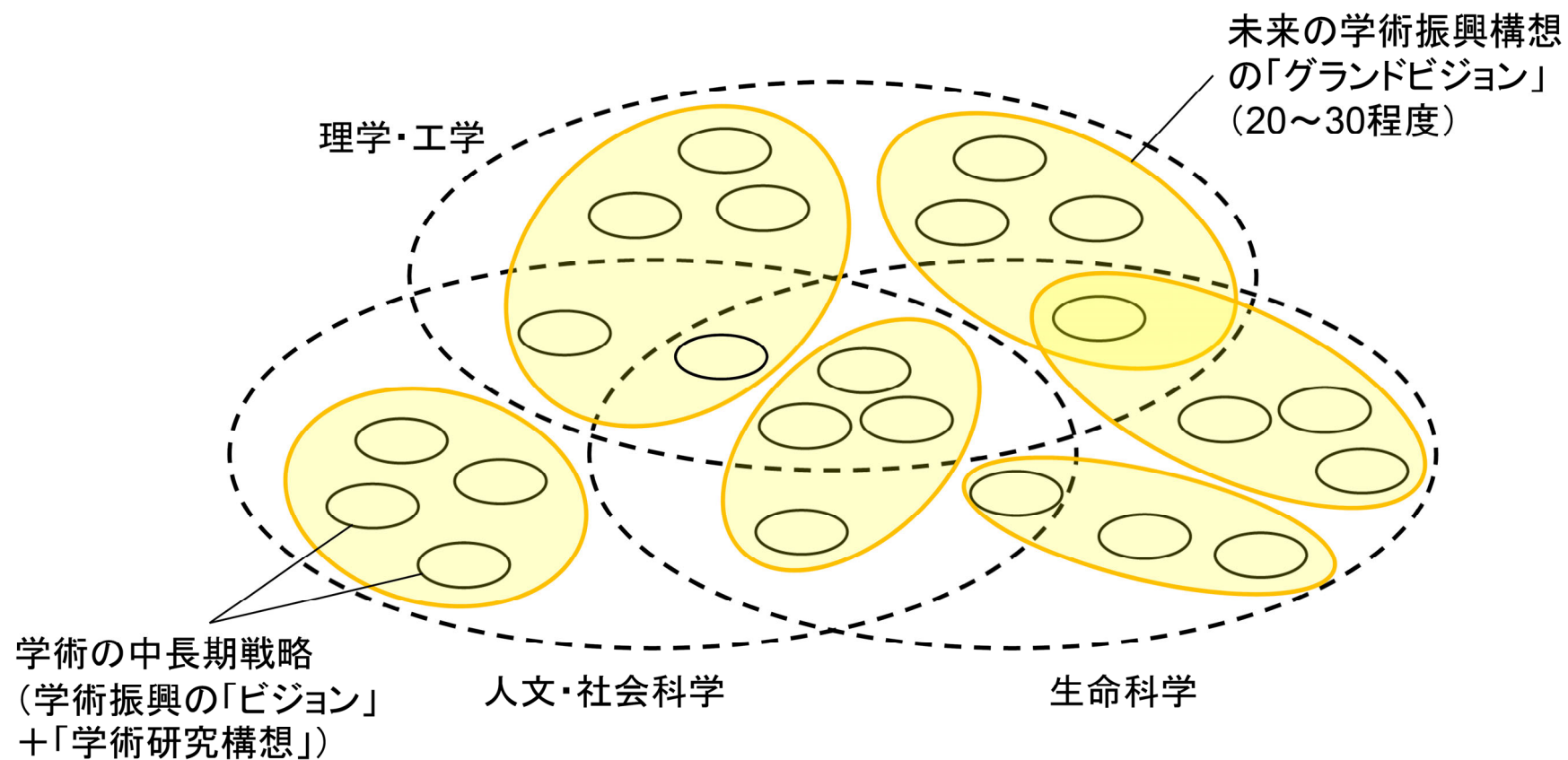
- 科学者コミュニティから自由な発想に基づくボトムアップを重視し、
- 研究・教育機関、学協会、日本学術会議会員・連携会員及び若手研究者から広く募集
- 複数の研究コミュニティが連携した複合的な提案、
- 予算の下限を設けず人文・社会科学分野が中核的に関わる提案について積極的に掘り起こし

■ 科学者コミュニティから提案された各「ビジョン」を単純に束ねるだけではなく、さらに一段高い分野横断的な視点から検討を加えて、「グランドビジョン」を策定

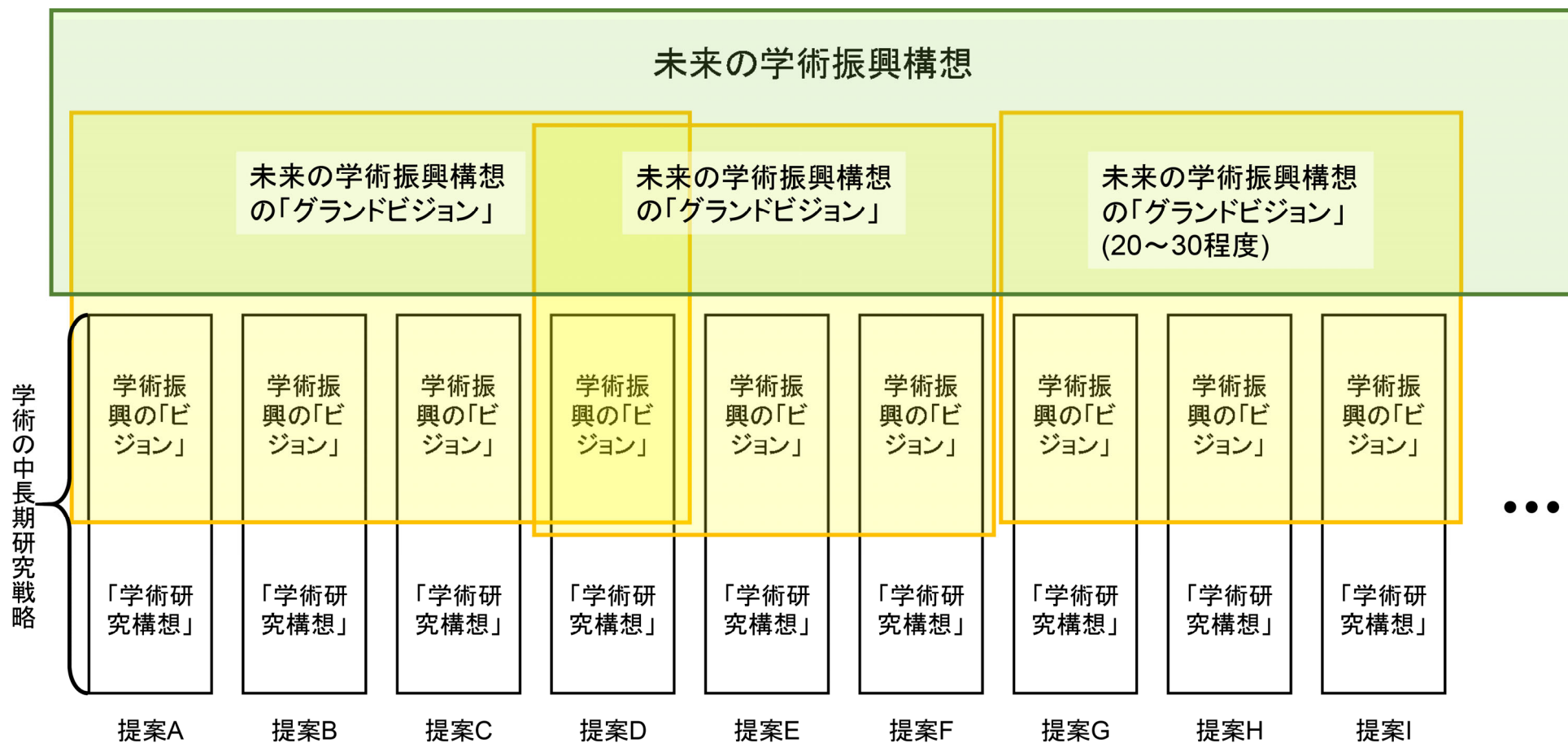
■ 「グランドビジョン」の実現に必要な「学術の中長期研究戦略」を掲載

未来の学術振興構想のイメージ(1)

未来の学術振興構想



未来の学術振興構想のイメージ(2)





「未来の学術振興構想(2023年版)」のグランドビジョン一覧

No.	グランドビジョン	No.	グランドビジョン
1	言語・コミュニケーション研究の充実を踏まえた現代社会問題のデータ解析による解決策の提示	11	数学・数理科学・量子情報科学が切り拓く未来社会
2	長い時間軸・大きな空間軸・多様な視点からのヒトと社会の科学	12	観測技術革新による地球システムの理解と地球変動予測への展開
3	日本史学を含めた非西洋史学の再構築と国際協働	13	地球規模の環境危機にレジリエントな持続的社会の構築
4	地球の生命環境と食料供給を持続させるための学術創生	14	エネルギーと環境の両立的課題解決
5	生命現象の包括的理解による真のWell-beingの創出	15	持続可能社会に資する革新的な物質・材料の開拓
6	ビッグデータ駆動による生命科学の新たな発展	16	量子ビームを用いた極限世界の解明と人類社会への貢献
7	ヒトの知性を知る、創る、活かすための学術の創生	17	太陽系探査の推進と人類のフロンティア拡大
8	超スマート社会における人の能力拡張とAIとの共生	18	宇宙における天体と生命の誕生・共進化の解明
9	サイバー空間の構築・活用による価値創造	19	自然界の基本法則と宇宙・物質の起源の探求
10	データ基盤と利活用による学術界の再構築		

未来の学術振興構想(2023年版)の分野別割合

○「学術の中長期研究戦略」の公募への応募状況

分 野		提案件数
人文・社会科学		9 (4.6%)
生命科学		17 (8.8%)
理学・工学		78 (40.2%)
分野融合		90 (46.4%)
	人文・社会科学と生命科学	2 (1.0%)
	人文・社会科学と理学・工学	18 (9.3%)
	生命科学と理学・工学	12 (6.2%)
	3分野すべて	58 (29.9%)
合 計		194

()内は全体の応募件数の合計に占める割合